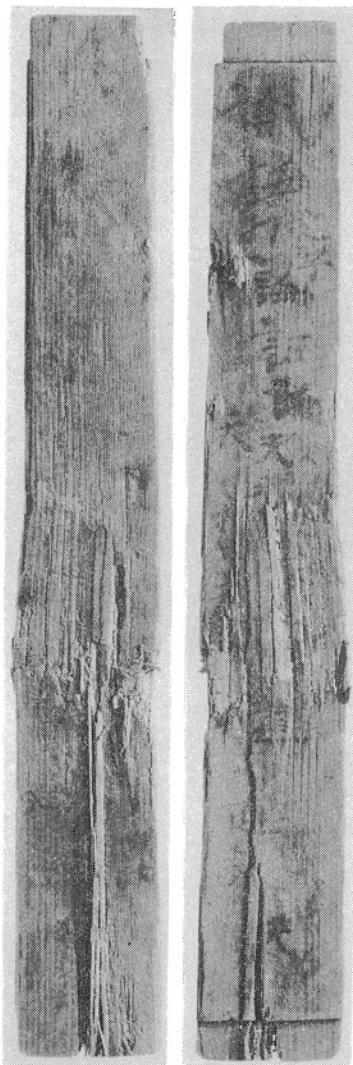


滋賀・勧学院遺跡

かんがいん



(近江八幡)



- 1 所在地 滋賀県近江八幡市馬渕町
- 2 調査期間 一九八五年（昭60）一〇月～一二月
- 3 発掘機関 勧滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 仲川 靖
- 5 遺跡の種類 集落跡及び官衙跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代後期、奈良時代中期、平安時代後期～鎌倉時代初頭

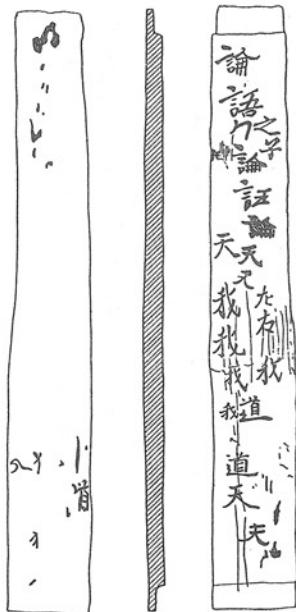
約九七mの水田地帯にある。一九八五年に県営ほ場整備事業が計画され、事前発掘調査を実施した。この付近は以前より、「西殿」「大」と記された奈良時代の墨書き器が出土しており、蒲生郡衙の推定地とされていた。調査の結果、奈良時代中期の二間×三間の総柱の掘立柱建物二棟、井戸一基、溝一条を検出した。木筒は、そのうちの井戸より出土した。井戸は四隅横桟止め縦板井戸と称されるもので、鎮めの祭をして埋戻しており、斎串・柳箱・桃の種子・瓜・網籠・土器片が出土している。

8 木筒の釦文・内容

(1) 「
 論語□之子
 □論□論天」天 左右 我 道 □□□
 天 我我我我 □道天 □
 「天」

7 遺跡及び木筒出土遺構の概要

勧学院遺跡は、近江八幡市の西南部に位置し、日野川東岸の標高



習書木簡で、二人の人物が書き記したとみられる。『論語』といふ書籍名と漢籍の一文にあるかと思える文字を手習いしたとみられる。『論語』は、養老学令5經周易尚書條によると、奈良時代では大学寮での必修書で、官吏登用試験にも用いられており、この習書木簡も、『論語』という文字を手習いしていた下級役人の姿をほうふつさせる。又、蒲生郡衙の存在を示唆する資料とも言えよう。

仲川
靖

〔入〕 331×48×10 065

木簡研究 第四号

卷頭言——木簡保存法の思い出——

坪井清足

一九八一年出土の木簡

概要	平城宮跡	奈良女子大學構内遺跡	法隆寺	藤原宮跡	長
岡京跡	三条西殿跡	鳥羽離宮跡	若江遺跡	佐堂遺跡	大阪城
三の丸（大手口）遺跡	小曾根遺跡	尾張國府跡	下津城跡	坂	
尻遺跡	小川城跡	桓川遺跡	三ツ寺Ⅱ遺跡	下野國府跡	多賀
城跡	郡山遺跡	胆沢城跡	道伝遺跡	笛原遺跡	明成寺遺跡

安田遺跡 大森鐘島遺跡 高堂遺跡 漆町遺跡（C地区） 南吉
田葛山遺跡 百間川遺跡群（原尾島遺跡） 草戸千軒町遺跡 道
照遺跡 長門国分寺跡 野田地区遺跡 湯川神社境内遺跡 大宰
府跡（大楠地区） 九州大学（筑紫地区） 構内遺跡 長野遺跡
辻田西遺跡

一九七七年以前出土の木簡（四）

平城宮跡（第二三次南・第二七次・第二八次・第二九次）
呪符木簡の系譜

「漆紙文書」出土概要

彙報

頒価 三五〇〇円
元 一四〇〇円